

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	久留米工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通科目	学部等 共通科目	専門科目	合計		
	機械工学科	夜・通信	0	0	15	15	7	
	電気電子工学科	夜・通信			10	10	7	
	制御情報工学科	夜・通信			9	9	7	
	生物応用化学科 (応用化学コース)	夜・通信			20	20	7	
	生物応用化学科 (生物化学コース)	夜・通信			22	22	7	
	材料システム工学科	夜・通信			24	24	7	
	機械・電気システム工学専攻 (機械工学コース)	夜・通信	6	6	5	11	7	
	機械・電気システム工学専攻 (電気電子工学コース)	夜・通信			4	10	7	
	機械・電気システム工学専攻 (制御情報工学コース)	夜・通信			3	9	7	
	物質工学専攻(生物応用化学コース)	夜・通信			6	12	7	
	物質工学専攻(材料工学コース)	夜・通信			8	14	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

WEB シラバスページにて公開。
https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=43&lang=ja

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	久留米工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/upload-file%20folder/02_%E4%BA%BA%E4%BA%8B/kisoku/yakuin-20221016.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	熊本大学長	2016年4月 1日～2024 年3月31日	理事長
常勤	豊橋技術科学大学理事・ 副学長	2020年4月 1日～2024 年3月31日	国際交流・海外展開 情報システム
非常勤	東京大学教授	2022年4月 1日～2024 年3月31日	男女共同参画
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	久留米工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 前年度の2月末頃までに授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、当該年度の4月1日に公開を行っている。	
授業計画書の公表方法	https://www.kurume-nct.ac.jp/ON/A-SAD/syllbus/index.html
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 成績の評価については、該当科目のシラバスに従って実施し、100点法により100点から80点はA、79点から70点はB、69点から60点はC、59点以下はDとして4段階で学年末成績により評価し、60点以上の場合に単位の修得を認めている。 また、履修については、各科目において開講時数の5分の4以上出席した者を履修と認めている。なお、遅刻及び早退は3回をもって欠課1回としている。	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	
(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 本科においては必修科目の単位加重平均により成績順位を算出している。 専攻科においては以下の計算式によりGPAを算出している。 $\text{GPA} = (\text{Aの単位数} \times 3.5 + \text{Bの単位数} \times 2 + \text{Cの単位数} \times 1) \div \text{規定単位数}$ 1. 規定単位数は、1年前期終了時は16単位、1年終了時は34単位、2年前期終了時は51単位、2年終了時は63単位とする。 2. 規定単位数を超えて修得した単位は、評価の低いものから削除しGPAに加えない。ただし、必修科目については削除を認めない。 3. 不可及び未履修で規定単位に満たない者の不足単位数は0ポイントとして算出する。 4. GPAは小数点第2桁までを表示する(第3桁は四捨五入)。	
客観的な指標の 算出方法の公表方法	https://www.kurume-nct.ac.jp/kikaku/hyouka.pdf
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本科の卒業の認定については、第5学年に在籍する者で学則における当該学年の当該年度に修得すべき単位を全て修得し、特別活動を5分の4以上出席した者について、卒業査定会議の議を経て校長が卒業を認める。

機械工学科は、ものづくりの精神を基本とし、機械技術者としての基礎能力や専門技術を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的機械技術者を育成することを目指しています。そのため以下のような能力を身につけ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。

1. 機械工業に必要な、材料強度、機械力学、設計製図、生産加工、制御情報、熱、流体および機械工学に関連した周辺技術に関する基礎的な知識と技術を修得し、課題を解決するために活用できる。
2. 自ら学び工夫するとともに、他者と協力して課題の解決に積極的に行動できる。
3. 環境に配慮しながら技術者倫理に沿って自律的に判断し、行動できる。
4. 広い視野と豊かな心を備えて社会に貢献できる。

電気電子工学科は、先端技術であるエレクトロニクスとICT、およびこれらを支える電気エネルギーの専門知識を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、高度情報通信社会に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的電気電子技術者を育成することを目指しています。そのため以下のような能力を身につけ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。

1. 電気電子工学に必要な、エレクトロニクス、情報通信技術 (ICT)、電気エネルギー、パワーエレクトロニクス、および電気電子工学に関連した周辺技術に関する基礎的な知識と技術を修得し、課題を解決するために活用できる。
2. 自ら学び工夫するとともに、他者と協力して課題の解決に積極的に行動できる。
3. 環境に配慮しながら技術者倫理に沿って自律的に判断し、行動できる。
4. 広い視野と豊かな心を備えて社会に貢献できる。

制御情報工学科は、制御、情報を中心とした幅広い専門知識を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会のさまざまな産業分野において活躍できる自立の精神に富んだ実践的、創造的制御情報技術者を育成します。そのため以下のような能力を身につけ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。

1. 制御情報分野に必要な、情報工学、通信ネットワーク、メカトロニクス、コンピュータ制御、および制御情報工学に関連した周辺技術に関する基礎的な知識と技術を修得し、課題を解決するために活用できる。
2. 自ら学び工夫するとともに、他者と協力して課題の解決に積極的に行動できる。
3. 環境に配慮しながら技術者倫理に沿って自律的に判断し、行動できる。
4. 広い視野と豊かな心を備えて社会に貢献できる。

生物応用化学科は、応用化学コースと生物化学コースを設けて、化学工業、バイオ工業に必要な基礎・専門知識および技術者素養を修得、複合化して使いこなすとともに、広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献できる、自立の精神に富んだ実践的、創造的技術者（生物化学または応用化学）を育成することを目指しています。そのため以下のような能力を身につけ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。

1. 両コース共通に、化学・生物の基礎、化学工学、環境工学、情報リテラシー、技術者素養、応用化学コースでは化学工業に必要な、有機化学、高分子化学、ポリマー工学、機能性有機材料および応用化学に関連した周辺技術、生物化学コースではバイオ工業に必要な、生物有機化学、バイオプロセス工学、遺伝子細胞工学および生物化学に関連した周辺技術に関する基礎的な知識と実験技術を修得し、課題を解決するため

に活用できる。

2. 自ら学び工夫するとともに、他者と協力して課題の解決に積極的に行動できる。
3. 環境に配慮しながら技術者倫理に沿って自律的に判断し、行動できる。
4. 広い視野と豊かな心を備えて社会に貢献できる。

材料システム工学科は、ものづくりの基礎となる工業材料の開発・設計・製造から利用、その後の寿命による破壊、リサイクルまで材料に関する一連の専門知識を身につけるとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会の発展に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的材料技術者を育成することを目指しています。そのため以下のような能力を身につけ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。

1. 材料システム工学に必要な金属材料、セラミックス材料および高分子材料に関する構造、性質、機能、製造プロセス、加工、リサイクル技術および関連した周辺技術、設計、解析、評価に関する基礎的な知識や技術を修得し、それらの課題を解決するために活用できる。
2. 自ら学び工夫するとともに、他者と協力して課題の解決に積極的に行動できる。
3. 環境に配慮しながら技術者倫理に沿って自律的に判断し、行動できる。
4. 広い視野と豊かな心を備えて社会に貢献できる。

専攻科の修了の認定については、2年以上在学し、所定の授業科目を履修し単位を修得した者について、専攻科修了認定に関する査定会議の議を経て校長が行う。

自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献できる実践的、創造的機械技術者として、機械工学、電気電子工学または制御情報工学の各コースに関する専門知識及び実践技術を所定の年限内に定めた科目を修得することにより教育目的を達成した者に修了を認定します。

自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献できる実践的、創造的機械技術者として生物応用化学または材料工学コースに関する専門知識及び実践技術を所定の年限内に定められた科目を修得することにより教育目的を達成した者に修了を認定します。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

https://www.kurume-nct.ac.jp/ON/G-GAD/ID/index-edu_res.html

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	久留米工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoR3.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoR3.pdf
財産目録	
事業報告書	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/R3jigyohoukoku.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/kansaR3.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画 対象年度:令和5年度)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/upload-file%20folder/01_%E7%B7%8F%E5%8B%99/r5-keikaku.pdf
中長期計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画 対象年度:平成31年(2019年)4月1日から令和6年(2024年)3月31日まで)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/upload-file%20folder/01_%E7%B7%8F%E5%8B%99/4th-keikaku.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.kurume-nct.ac.jp/kikaku/SelfInspection.html

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: http://www.kurume-nct.ac.jp/0N/0N/ninsyohyouka/ninsyohyouka.htm

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 機械工学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.kurume-nct.ac.jp/faculty/mechanical ） （概要） ものづくりの精神を基本とし、機械技術者としての基礎能力や専門技術を修得し、創造性豊かで国際的視野に立った実践的技術者を育成する。 機械技術者としての素養を備え、専門分野に関する基礎的な知識、技術を修得し、それらを活用できる能力を養成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.kurume-nct.ac.jp/ON/G-GAD/ID/index-edu_res.html ） （概要） 本科の卒業の認定については、第 5 学年に在籍する者で学則における当該学年の当該年度に修得すべき単位を全て修得し、特別活動を 5 分の 4 以上出席した者について、卒業査定会議の議を経て校長が卒業を認める。 機械工学科は、ものづくりの精神を基本とし、機械技術者としての基礎能力や専門技術を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的機械技術者を育成することを目指しています。そのため以下のような能力を身につけ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。 1. 機械工業に必要な、材料強度、機械力学、設計製図、生産加工、制御情報、熱、流体および機械工学に関連した周辺技術に関する基礎的な知識と技術を修得し、課題を解決するために活用できる。 2. 自ら学び工夫するとともに、他者と協力して課題の解決に積極的に行動できる。 3. 環境に配慮しながら技術者倫理に沿って自律的に判断し、行動できる。 4. 広い視野と豊かな心を備えて社会に貢献できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.kurume-nct.ac.jp/kikaku/Policy.html ） （概要） 機械工学科は、ものづくりの精神を基本とし、機械技術者としての基礎能力や専門技術を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的機械技術者を育成することを目指しています。そのため以下のように教育課程を編成します。 1. 低学年では、数学、物理、化学などの工学の基礎科目、コミュニケーション能力の基礎となる国語、英語、および一般教養の基礎となる社会科目を多く配置し、高学年に進むに従い機械工学に関する専門科目が多くなるくさび形に授業科目を編成することで、広い視野と豊かな心を育み、社会に貢献する姿勢を養います。 2. 低学年より実験・実習を設定して技術の実際に触れることで技術への理解を促すとともに、高学年ではインターンシップや卒業研究によりエンジニアリング・スピリットを体得した専門技術者としての能力を養成します。 3. 機械工業に必要な専門知識および技術が効果的に身につくよう専門科目を編成します。 4. 各科目の単位修得の認定は主に定期試験によるものとしますが、実験・実習科目などレポートによって認定するものもあります。認定の基準はいずれも評価点 60 点以上とします。
入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.kurume-nct.ac.jp/kikaku/Policy.html ）

https://www.kurume-nct.ac.jp/kikaku/AdmissionPolicy.html)
(概要) 「求める学生像」 機械工学科は、ものづくりの精神を基本とし、機械技術者としての基礎能力や専門技術を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的機械技術者を育成することを目指しています。そのため次のような入学者を求めています。 1. 機械技術者になる意欲を持っている人 2. 理数系の基礎学力が身に付いている人 3. 自立心があり、社会的ルールを守って行動できる人 4. 他の人と対話を通して相互理解を深めようとする人 「入学者選抜の基本方針」 第一学年への入学者の選抜は、推薦による選抜及び学力検査による選抜により行う。 ◇推薦による選抜 調査書、推薦書、推薦選抜志願調書、適正検査（数学）の成績及び面接の評価を総合して行う。 ◇学力検査による選抜 調査書及び学力検査（理科、英語、数学、国語及び社会）の成績を総合して行う。第三学年への外国人留学生の編入学者の選抜は、高専機構が実施する選抜試験により行う。 ◇高専機構による選抜 出願書類、日本留学試験の成績、TOEFL、TOEIC 又は IELTS の成績及び面接の評価を総合して行う。第四学年への編入学者の選抜は学力検査による選抜により行う。 ◇学力検査による選抜 調査書及び学力検査（数学、英語及び理科）の成績を総合して行う。

学部等名 電気電子工学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.kurume-nct.ac.jp/faculty/electrical)
(概要) 先端技術であるエレクトロニクスと ICT、及びこれらを支える電気エネルギーの専門知識を修得し、高度情報通信社会に貢献できる実践的、創造的電気電子技術者を育成する。電気電子技術者としての素養を備え、次の専門分野に関する専門知識と技術を修得し、それらを総合的に活用できる能力を養成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.kurume-nct.ac.jp/ON/G-GAD/ID/index-edu_res.html)
(概要) 本科の卒業の認定については、第 5 学年に在籍する者で学則における当該学年の当該年度に修得すべき単位を全て修得し、特別活動を 5 分の 4 以上出席した者について、卒業査定会議の議を経て校長が卒業を認める。 電気電子工学科は、先端技術であるエレクトロニクスと ICT、およびこれらを支える電気エネルギーの専門知識を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、高度情報通信社会に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的電気電子技術者を育成することを目指しています。そのため以下のような能力を身につけ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。 1. 電気電子工学に必要な、エレクトロニクス、情報通信技術（ICT）、電気エネルギー、パワーエレクトロニクス、および電気電子工学に関連した周辺技術に関する基礎的な知識と技術を修得し、課題を解決するために活用できる。 2. 自ら学び工夫するとともに、他者と協力して課題の解決に積極的に行動できる。 3. 環境に配慮しながら技術者倫理に沿って自律的に判断し、行動できる。

4. 広い視野と豊かな心を備えて社会に貢献できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<https://www.kurume-nct.ac.jp/kikaku/Policy.html>）

（概要）

電気電子工学科は、先端技術であるエレクトロニクスとICT、およびこれらを支える電気エネルギーの専門知識を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、高度情報通信社会に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的電気電子技術者を育成することを目指しています。そのため以下のように教育課程を編成します。

1. 低学年では、数学、物理、化学などの工学の基礎科目、コミュニケーション能力の基礎となる国語、英語、および一般教養の基礎となる社会科科目を多く配置し、高学年に進むに従い電気電子工学に関する専門科目が多くなるくさび形に授業科目を編成することで、広い視野と豊かな心を育み、社会に貢献する姿勢を養います。
2. 低学年より実験・実習を設定して技術の実際に触れることで技術への理解を促すとともに、高学年ではインターンシップや卒業研究によりエンジニアリング・スピリットを体得した専門技術者としての能力を養成します。
3. 電気電子工学に必要な専門知識および技術が効果的に身につくよう専門科目を編成します。
4. 各科目の単位修得の認定は主に定期試験によるものとしますが、実験・実習科目などレポートによって認定するものもあります。認定の基準はいずれも評価点 60 点以上とします。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://www.kurume-nct.ac.jp/kikaku/Policy.html>

<https://www.kurume-nct.ac.jp/kikaku/AdmissionPolicy.html>）

（概要）

「求める学生像」

電気電子工学科は、先端技術であるエレクトロニクスとICT、およびこれらを支える電気エネルギーの専門知識を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、高度情報通信社会に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的電気電子技術者を育成することを目指しています。そのため次のような入学者を求めています。

1. 電気電子技術者になる意欲を持っている人
2. 理数系の基礎学力が身に付いている人
3. 自立心があり、社会的ルールを守って行動できる人
4. 他の人と対話を通して相互理解を深めようとする人

「入学者選抜の基本方針」

第一学年への入学者の選抜は、推薦による選抜及び学力検査による選抜により行う。

◇推薦による選抜

調査書、推薦書、推薦選抜志願調書、適正検査（数学）の成績及び面接の評価を総合して行う。

◇学力検査による選抜

調査書及び学力検査（理科、英語、数学、国語及び社会）の成績を総合して行う。第三学年への外国人留学生の編入学者の選抜は、高専機構が実施する選抜試験により行う。

◇高専機構による選抜

出願書類、日本留学試験の成績、TOEFL、TOEIC 又は IELTS の成績及び面接の評価を総合して行う。第四学年への編入学者の選抜は学力検査による選抜により行う。

◇学力検査による選抜

調査書及び学力検査（数学、英語及び理科）の成績を総合して行う。

学部等名 制御情報工学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.kurume-nct.ac.jp/faculty/control ）
（概要） 制御、情報を中心とした幅広い専門知識を修得し、広い視野と豊かな創造性を備え、さまざまな産業分野において活躍できる実践的能力に優れた技術者を育成する。 メカトロニクスや情報の次の分野で活躍できる技術者になるために必要な次の専門分野に関する基礎的な知識、技術を修得し、それらを活用できる能力を養成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.kurume-nct.ac.jp/ON/G-GAD/ID/index-edu_res.html ）
（概要） 本科の卒業の認定については、第5学年に在籍する者で学則における当該学年の当該年度に修得すべき単位を全て修得し、特別活動を5分の4以上出席した者について、卒業査定会議の議を経て校長が卒業を認める。 制御情報工学科は、制御、情報を中心とした幅広い専門知識を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会のさまざまな産業分野において活躍できる自立の精神に富んだ実践的、創造的制御情報技術者を育成します。そのため以下のような能力を身につけ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。 1. 制御情報分野に必要な、情報工学、通信ネットワーク、メカトロニクス、コンピュータ制御、および制御情報工学に関連した周辺技術に関連する基礎的な知識と技術を修得し、課題を解決するために活用できる。 2. 自ら学び工夫するとともに、他者と協力して課題の解決に積極的に行動できる。 3. 環境に配慮しながら技術者倫理に沿って自律的に判断し、行動できる。 4. 広い視野と豊かな心を備えて社会に貢献できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.kurume-nct.ac.jp/kikaku/Policy.html ）
（概要） 制御情報工学科は、制御、情報を中心とした幅広い専門知識を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会のさまざまな産業分野において活躍できる自立の精神に富んだ実践的、創造的制御情報技術者を育成することを目指しています。そのため以下のように教育課程を編成します。 1. 低学年では、数学、物理、化学などの工学の基礎科目、コミュニケーション能力の基礎となる国語、英語、および一般教養の基礎となる社会科科目を多く配置し、高学年に進むに従い制御工学と情報工学に関する専門科目が多くなるくさび形に授業科目を編成することで、広い視野と豊かな心を育み、社会に貢献する姿勢を養います。 2. 低学年より実験・実習を設定して技術の実際に触れることで技術への理解を促すとともに、高学年ではインターンシップや卒業研究によりエンジニアリング・スピリットを体得した専門技術者としての能力を養成します。 3. 制御工学と情報工学に関する専門知識および技術が効果的に身につくよう専門科目を編成します。 4. 各科目の単位修得の認定は主に定期試験によるものとしますが、実験・実習科目などレポートによって認定するものもあります。認定の基準はいずれも評価点 60 点以上とします。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.kurume-nct.ac.jp/kikaku/Policy.html https://www.kurume-nct.ac.jp/kikaku/AdmissionPolicy.html）

(概要) 「求める学生像」 制御情報工学科は、制御、情報を中心とした幅広い専門知識を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会のさまざまな産業分野において活躍できる自立の精神に富んだ実践的、創造的制御情報技術者を育成することを目指しています。そのため次のような入学者を求めています。 1. 制御情報技術者になる意欲を持っている人 2. 理数系の基礎学力が身に付いている人 3. 自立心があり、社会的ルールを守って行動できる人 4. 他の人と対話を通して相互理解を深めようとする人 「入学者選抜の基本方針」 第一学年への入学者の選抜は、推薦による選抜及び学力検査による選抜により行う。 ◇推薦による選抜 調査書、推薦書、推薦選抜志願調書、適正検査（数学）の成績及び面接の評価を総合して行う。 ◇学力検査による選抜 調査書及び学力検査（理科、英語、数学、国語及び社会）の成績を総合して行う。第三学年への外国人留学生の編入学者の選抜は、高専機構が実施する選抜試験により行う。 ◇高専機構による選抜 出願書類、日本留学試験の成績、TOEFL、TOEIC 又は IELTS の成績及び面接の評価を総合して行う。第四学年への編入学者の選抜は学力検査による選抜により行う。 ◇学力検査による選抜 調査書及び学力検査（数学、英語及び理科）の成績を総合して行う。

学部等名 生物応用化学科
教育研究上の目的(公表方法: https://www.kurume-nct.ac.jp/faculty/biochemistry)
(概要) 化学工業、バイオ工業に必要な基礎・専門知識及び技術者素養を修得し、個別の知識を複合化して使いこなし、社会に貢献できる実践的・創造的技術者を育成する。 化学工業、バイオ工業に必要な次の専門分野に関する専門知識、豊富な実験技術を修得し、環境に配慮し技術者倫理を守って、それらを課題解決及び企画立案に活用できる能力を養成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.kurume-nct.ac.jp/ON/G-GAD/ID/index-edu_res.html ）
(概要) 本科の卒業の認定については、第5学年に在籍する者で学則における当該学年の当該年度に修得すべき単位を全て修得し、特別活動を5分の4以上出席した者について、卒業査定会議の議を経て校長が卒業を認める。 生物応用化学科は、応用化学コースと生物化学コースを設けて、化学工業、バイオ工業に必要な基礎・専門知識および技術者素養を修得、複合化して使いこなすとともに、広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献できる、自立の精神に富んだ実践的、創造的技術者（生物化学または応用化学）を育成することを目指しています。そのため以下のような能力を身につけ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。 1. 両コース共通に、化学・生物の基礎、化学工学、環境工学、情報リテラシー、技術者素養、応用化学コースでは化学工業に必要な、有機化学、高分子化学、ポリマー工学、機能性有機材料および応用化学に関連した周辺技術、生物化学コースではバイオ工業に必要な、生物有機化学、バイオプロセス工学、遺伝子細胞工学および生物化学に関連した周辺技術に関する基礎的な知識と実験技術を修得し、課題を解決するために活用できる。

2. 自ら学び工夫するとともに、他者と協力して課題の解決に積極的に行動できる。
3. 環境に配慮しながら技術者倫理に沿って自律的に判断し、行動できる。
4. 広い視野と豊かな心を備えて社会に貢献できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<https://www.kurume-nct.ac.jp/kikaku/Policy.html>）

（概要）

生物応用化学科は、応用化学コースと生物化学コースを設けて、化学工業、バイオ工業に必要な基礎・専門知識および技術者素養を修得、複合化して使いこなすとともに、広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献できる、自立の精神に富んだ実践的、創造的技術者を育成することを目指しています。そのため以下のように教育課程を編成します。

1. 低学年では、数学、物理、化学などの工学の基礎科目、コミュニケーション能力の基礎となる国語、英語、および一般教養の基礎となる社会科科目を多く配置し、高学年に進むに従い応用化学や生物化学に関する専門科目が多くなるくさび形の授業科目を編成することで、広い視野と豊かな心を育み、社会に貢献する姿勢を養います。
2. 低学年より実験・実習を設定して技術の実際に触れることで技術への理解を促すとともに、高学年ではインターンシップや卒業研究によりエンジニアリング・スピリットを体得した専門技術者としての能力を養成します。
3. 化学工業やバイオ工業に必要な専門知識および技術が効果的に身につくよう専門科目を編成します。
4. 各科目の単位修得の認定は主に定期試験によるものとしますが、実験・実習科目などレポートによって認定するものもあります。認定の基準はいずれも評価点 60 点以上とします。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://www.kurume-nct.ac.jp/kikaku/Policy.html>
<https://www.kurume-nct.ac.jp/kikaku/AdmissionPolicy.html>）

（概要）

「求める学生像」

生物応用化学科は、応用化学コースと生物化学コースを設けて、化学工業、バイオ工業に必要な基礎・専門知識および技術者素養を修得、複合化して使いこなすとともに、広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献できる、自立の精神に富んだ実践的、創造的技術者を育成することを目指しています。そのため次のような入学者を求めています。

1. 生物化学技術者または応用化学技術者になる意欲を持っている人
2. 理数系の基礎学力が身に付いている人
3. 自立心があり、社会的ルールを守って行動できる人
4. 他の人と対話を通して相互理解を深めようとする人

「入学者選抜の基本方針」

第一学年への入学者の選抜は、推薦による選抜及び学力検査による選抜により行う。

◇推薦による選抜

調査書、推薦書、推薦選抜志願調書、適正検査（数学）の成績及び面接の評価を総合して行う。

◇学力検査による選抜

調査書及び学力検査（理科、英語、数学、国語及び社会）の成績を総合して行う。第三学年への外国人留学生の編入学者の選抜は、高専機構が実施する選抜試験により行う。

◇高専機構による選抜

出願書類、日本留学試験の成績、TOEFL、TOEIC 又は IELTS の成績及び面接の評価を総合して行う。第四学年への編入学者の選抜は学力検査による選抜により行う。

◇学力検査による選抜

調査書及び学力検査（数学、英語及び理科）の成績を総合して行う。

学部等名 材料システム工学科

教育研究上の目的（公表方法：https://www.kurume-nct.ac.jp/faculty/material） （概要） ものづくりの基礎となる工業材料の開発・設計・製造から利用、その後の寿命による破壊、リサイクルまでの材料に関する一連の専門知識を身につけ、社会の発展に貢献できる技術者を育成する。 金属、セラミックス、高分子材料などに関する次にあげる基礎的な知識や技術を修得し、それらを活用できる能力を養成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.kurume-nct.ac.jp/ON/GAD/ID/index-edu_res.html） （概要） 本科の卒業の認定については、第5学年に在籍する者で学則における当該学年の当該年度に修得すべき単位を全て修得し、特別活動を5分の4以上出席した者について、卒業査定会議の議を経て校長が卒業を認める。 材料（システム）工学科は、ものづくりの基礎となる工業材料の開発・設計・製造から利用、その後の寿命による破壊、リサイクルまで材料に関する一連の専門知識を身につけるとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会の発展に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的材料技術者を育成することを目指しています。そのため以下のような能力を身につけ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。 1. 材料（システム）工学に必要な金属材料、セラミックス材料および高分子材料に関する構造、性質、機能、製造プロセス、加工、リサイクル技術および関連した周辺技術、設計、解析、評価に関する基礎的な知識や技術を修得し、それらの課題を解決するために活用できる。 2. 自ら学び工夫するとともに、他者と協力して課題の解決に積極的に行動できる。 3. 環境に配慮しながら技術者倫理に沿って自律的に判断し、行動できる。 4. 広い視野と豊かな心を備えて社会に貢献できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.kurume-nct.ac.jp/kikaku/Policy.html） （概要） 材料（システム）工学科は、ものづくりの基礎となる工業材料の開発・設計・製造から利用、その後の寿命による破壊、リサイクルまで材料に関する一連の専門知識を身につけるとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会の発展に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的材料技術者を育成することを目指しています。そのため以下のように教育課程を編成します。 1. 低学年では、数学、物理、化学などの工学の基礎科目、コミュニケーション能力の基礎となる国語、英語、および一般教養の基礎となる社会科学科目を多く配置し、高学年に進むに従い工業材料に関する専門科目が多くなるくさび形の授業科目を編成することで、広い視野と豊かな心を育み、社会に貢献する姿勢を養います。 2. 低学年より実験・実習を設定して技術の実際に触れることで技術への理解を促すとともに、高学年ではインターンシップや卒業研究によりエンジニアリング・スピリットを体得した専門技術者としての能力を養成します。 3. 金属材料、セラミックス材料および高分子材料に関する材料工学の専門知識および技術が効果的に身につくよう専門科目を編成します。 4. 各科目の単位修得の認定は主に定期試験によるものとしますが、実験・実習科目などレポートによって認定するものもあります。認定の基準はいずれも評価点60点以上とします。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.kurume-nct.ac.jp/kikaku/Policy.html https://www.kurume-nct.ac.jp/kikaku/AdmissionPolicy.html）

(概要) 「求める学生像」 材料システム工学科は、ものづくりの基礎となる工業材料の開発・設計・製造から利用、その後の寿命による破壊、リサイクルまで材料に関する一連の専門知識を身につけるとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会の発展に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的材料技術者を育成することを目指しています。そのため次のような人を求めています。 1. 材料技術者になる意欲を持っている人 2. 理数系の基礎学力が身に付いている人 3. 自立心があり、社会的ルールを守って行動できる人 4. 他の人と対話を通して相互理解を深めようとする人 「入学者選抜の基本方針」 第一学年への入学者の選抜は、推薦による選抜及び学力検査による選抜により行う。 ◇推薦による選抜 調査書、推薦書、推薦選抜志願調書、適正検査（数学）の成績及び面接の評価を総合して行う。 ◇学力検査による選抜 調査書及び学力検査（理科、英語、数学、国語及び社会）の成績を総合して行う。第三学年への外国人留学生の編入学者の選抜は、高専機構が実施する選抜試験により行う。 ◇高専機構による選抜 出願書類、日本留学試験の成績、TOEFL、TOEIC 又は IELTS の成績及び面接の評価を総合して行う。第四学年への編入学者の選抜は学力検査による選抜により行う。 ◇学力検査による選抜 調査書及び学力検査（数学、英語及び理科）の成績を総合して行う。

学部等名 専攻科機械・電気システム工学専攻
教育研究上の目的（公表方法： https://www.kurume-nct.ac.jp/faculty/advanced ）
(概要) 次のような実践的、創造的技術者を育成する。 先端技術及び高度情報化に対応できる技術者 創造的研究開発能力を持った技術者 国際化に対応できる技術者 (1) 機械工学コース 技術者倫理 数学、物理、情報処理に関する知識と応用力 機械工学に関する専門知識の習得と職業上応用できる基礎能力の育成 工学的な解析能力・考察力の育成及び機器操作の習得 自主的にテーマを企画立案し、創造的かつ継続的に実施できる 種々の工学的知識や技術を利用し、自己学習やグループ学習により社会の要求を解決できる。 専門技術に関するプレゼンテーションと国際化に対応できる基礎的なコミュニケーション 与えられた条件のもとで技術者として地域社会に貢献できる。 (2) 電気電子工学コース 先端の電気エネルギーをマネジメントできる電気電子技術の習得 先端の情報通信・電子機器を活用できる電気電子技術の習得 もの、製品をベースにした技術実務能力の習得

電気電子技術の基礎となる学力の修得 技術に関するコミュニケーション能力の育成 技術者倫理感覚の育成 企画・管理能力の育成 (3) 制御情報工学コース 技術者としての広い視野と倫理観 基礎工学の知識と応用力 専門工学の知識と応用力 デザイン力 コミュニケーション力 実践力
卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.kurume-nct.ac.jp/ON/G-GAD/ID/index-edu_res.html）
（概要） 専攻科の修了の認定については、2年以上在学し、所定の授業科目を履修し単位を修得した者について、専攻科修了認定に関する査定会議の議を経て校長が行う。 自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献できる実践的、創造的機械技術者として、機械工学、電気電子工学または制御情報工学の各コースに関する専門知識及び実践技術を所定の年限内に定めた科目を修得することにより教育目的を達成した者に修了を認定します。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.kurume-nct.ac.jp/kikaku/Policy.html）
（概要） カリキュラムには教育目標達成に必要な講義、演習、実験を配置します。専攻科で定めた一般科目、専門基礎科目及び機械・電気システム工学専攻で定めた専門必修科目、更に機械工学、電気電子工学または制御情報工学の各コースで定めた専門選択科目群から所定単位以上修得します。 これらを定めた年限で履修、単位認定をします。科目の単位修得の認定は主に定期試験によるものとしますが、実験・実習科目などレポートによって認定するもの、口頭発表の評価を含むものもあります。評価基準はいずれも60点以上で修得とします。 各コースでは、機械工学、電気電子工学または情報工学の専攻の区分で学士の学位を取得できるカリキュラムを編成しています。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.kurume-nct.ac.jp/kikaku/Policy.html）
（概要） 「求める学生像」 (1) 科学技術に対する強い探究心を持ち、積極的に取り組む人 (2) 専門分野の基礎を修得している人 (3) 社会性と倫理観を身につけている人 (4) 基礎的なコミュニケーション能力を身につけている人 「入学者選抜の基本方針」 入学者の選抜は、推薦による選抜、学力検査による選抜及び企業等の推薦による社会人選抜により行う。 ◇推薦による選抜調査書、推薦書、志願調書、TOEIC スコア及び面接の評価を総合して行う。 ◇学力検査による選抜調査書、TOEIC スコア及び学力検査（専門及び数学）の成績を総合して行う。 ◇企業等の推薦による社会人選抜成績証明書、推薦書、TOEIC スコア及び面接の評価を総

合して行う。

学部等名 専攻科物質工学専攻

教育研究上の目的（公表方法：<https://www.kurume-nct.ac.jp/faculty/advanced>）

（概要）

次のような実践的、創造的技術者を育成する。

先端技術及び高度情報化に対応できる技術者

創造的研究開発能力を持った技術者

国際化に対応できる技術者

（４）生物応用化学コース

技術者倫理と多面的視野

生物応用化学基礎と工学基礎

生物応用化学の専門知識と応用力

生物応用化学基礎、工学基礎、生物応用化学の専門知識を活用し、社会の要求を解決するための企画力を持っている。

国際化に対応できるコミュニケーション基礎能力を習得する。

自主的にテーマを企画立案し、創造的かつ継続的に実施することがきる。

地域社会を中心とした産業界に技術者として広く貢献できる。

（５）材料工学コース

自然科学及び情報処理技術に関する知識

材料に関する基礎的知識と応用力

工学的基礎原理・現象の理解能力

調査及び実行能力

異文化理解とコミュニケーション能力

多面的視野と技術者倫理

地域産業での実務経験

卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.kurume-nct.ac.jp/ON/G-GAD/ID/index-edu_res.html）

（概要）

専攻科の修了の認定については、２年以上在学し、所定の授業科目を履修し単位を修得した者について、専攻科修了認定に関する査定会議の議を経て校長が行う。

自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献できる実践的、創造的機械技術者として生物応用化学または材料工学コースに関する専門知識及び実践技術を所定の年限内に定められた科目を修得することにより教育目的を達成した者に修了を認定します。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<https://www.kurume-nct.ac.jp/kikaku/Policy.html>）

(概要) カリキュラムには教育目標達成に必要な講義、演習、実験を配置します。専攻科で定めた一般科目、専門基礎科目及び物質工学専攻で定めた専門必修科目、更に生物応用化学または材料工学の各コースで定めた専門選択科目群から所定単位以上修得します。これらを定めた年限で履修、単位認定をします。科目の単位修得の認定は主に定期試験によるものとしますが、実験・実習科目などレポートによって認定するもの、口頭発表の評価を含むものもあります。評価基準はいずれも 60 点以上で 修得とします。各コースでは、応用化学または材料工学の専攻の区分で学士の学位を取得できるカリキュラムを編成しています。
入 学 者 の 受 入 れ に 関 す る 方 針 （ 公 表 方 法 ： https://www.kurume-nct.ac.jp/kikaku/Policy.html）
(概要) 「求める学生像」 (1) 科学技術に対する強い探究心を持ち、積極的に取り組む人 (2) 専門分野の基礎を修得している人 (3) 社会性と倫理観を身につけている人 (4) 基礎的なコミュニケーション能力を身につけている人 「入学者選抜の基本方針」 入学者の選抜は、推薦による選抜、学力検査による選抜及び企業等の推薦による社会人選抜により行う。 ◇推薦による選抜調査書、推薦書、志願調書、TOEIC スコア及び面接の評価を総合して行う。 ◇学力検査による選抜調査書、TOEIC スコア及び学力検査（専門及び数学）の成績を総合して行う。 ◇企業等の推薦による社会人選抜成績証明書、推薦書、TOEIC スコア及び面接の評価を総合して行う。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.kurume-nct.ac.jp/ON/P-GAD/sosiki/sosiki-yaku.htm>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	1人	－					1人
機械工学科	－	5人	4人	人	人	人	9人
電気電子工学科	－	5人	2人	人	1人	人	8人
制御情報工学科	－	4人	5人	人	人	人	9人
生物応用化学科	－	5人	4人	人	1人	人	10人
材料システム工学科	－	5人	3人	人	2人	人	10人
一般科目（文科系）	－	6人	5人	人	1人	人	12人
一般科目（理科系）	－	3人	8人	人	人	人	11人
専攻科 （機械・電気システム工学専攻）	－	23人	15人	人	2人	人	40人
専攻科 （物質工学専攻）	－	20人	12人	人	3人	人	35人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		29人					29人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：学校要覧（冊子）、研究者総覧（Web）					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
令和4年6月6日に令和4年度第1回教育改善会議として、「職場における労働災害を防ぐためには」を実施。							
令和4年12月1日に令和4年度第2回教育改善会議として、「スクールソーシャルワーカーの役割と活用について」を実施							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
機械工学科	40人	40人	100.0%	200人	215人	107.5%	—	1人
電気電子工学科	40人	42人	105.0%	200人	212人	106.0%	—	1人
制御情報工学科	40人	43人	107.5%	200人	213人	106.5%	—	3人
生物応用化学科	40人	42人	105.0%	200人	205人	102.5%	—	1人
材料システム工学科	40人	42人	105.0%	200人	211人	105.5%	—	2人
合計	200人	209人	104.5%	1000人	1056人	105.6%	—	8人
専攻科機械・電気システム工学専攻	12人	21人	175.0%	24人	47人	195.8%	—	0人
専攻科物質工学専攻	8人	18人	225.0%	16人	30人	187.5%	—	0人

合計	20 人	39 人	195.0%	40 人	77 人	192.5%	—	0 人
(備考) 「材料工学科」は平成29年4月に「材料システム工学科」へ名称変更								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
機械工学科	32 人 (100%)	11 人 (34.4%)	19 人 (59.4%)	2 人 (6.3%)
電気電子工学科	37 人 (100%)	22 人 (59.5%)	13 人 (35.1%)	2 人 (5.4%)
制御情報工学科	38 人 (100%)	21 人 (55.3%)	13 人 (34.2%)	4 人 (10.5%)
生物応用化学科	35 人 (100%)	20 人 (57.1%)	13 人 (37.1%)	2 人 (5.7%)
材料システム工学科	39 人 (100%)	20 人 (51.3%)	18 人 (46.2%)	1 人 (2.6%)
材料工学科	1 人 (100%)	0 人 (0.0%)	1 人 (100.0%)	0 人 (0.0%)
合計	182 人 (100%)	94 人 (51.6%)	77 人 (42.3%)	11 人 (6.0%)
専攻科機械・電気システム工学専攻	23 人 (100%)	9 人 (39.1%)	13 人 (56.5%)	1 人 (4.3%)
専攻科物質工学専攻	15 人 (100%)	11 人 (73.3%)	4 人 (26.7%)	0 人 (0.0%)
合計	38 人 (100%)	20 人 (52.6%)	17 人 (44.7%)	1 人 (2.6%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
https://www.kurume-nct.ac.jp/kikaku/Univ_Job.html				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
機械工学科	43 人 (100%)	30 人 (69.8%)	9 人 (20.9%)	4 人 (9.3%)	0 人 (0%)
電気電子工学科	43 人 (100%)	35 人 (81.4%)	6 人 (14.0%)	2 人 (4.7%)	0 人 (0%)
制御情報工学科	43 人 (100%)	36 人 (83.7%)	2 人 (4.7%)	5 人 (11.6%)	0 人 (0%)
生物応用化学科	43 人 (100%)	31 人 (72.1%)	6 人 (14.0%)	6 人 (14.0%)	0 人 (0%)
材料システム工学科	43 人 (100%)	34 人 (79.1%)	2 人 (4.7%)	7 人 (16.3%)	0 人 (0%)
合計	215 人 (100%)	166 人 (77.2%)	25 人 (11.6%)	24 人 (11.2%)	0 人 (0%)
専攻科機械・電気シス テム工学専攻	23 人 (100%)	22 人 (95.7%)	0 人 (0%)	1 人 (4.3%)	0 人 (0%)
専攻科物質工学専攻	15 人 (100%)	15 人 (100%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)
合計	38 人 (100%)	37 人 (97.4%)	0 人 (0%)	1 人 (2.6%)	0 人 (0%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
教務委員会にて12月上旬に、前年度の2月末頃までに授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画（シラバス）を作成するよう依頼し、1月下旬に進捗の確認、2月末に内容を確認の上、当該年度の4月1日に公開を行っている。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
「久留米工業高等専門学校における学業成績の評価並びに単位の認定及び及落に関する規程」及び「久留米工業高等専門学校専攻科における学業成績の評価並びに単位の認定及び修了に関する規程」に則り、成績の評価については、該当科目のシラバスに従って実施し、100点法により100点から80点はA、79点から70点はB、69点から60点はC、59点以下はDとして4段階で学年末成績により評価し、60点以上の場合に単位の修得を認めている。また、履修については、各科目において開講時数の5分の4以上出席した者を履修と認めている。なお、遅刻及び早退は3回をもって欠課1回としている。				
本科の卒業の認定については、第5学年に在籍する者で学則における当該学年の当該年度に修得すべき単位を全て修得し、特別活動を5分の4以上出席した者について、卒業査定会議の議を経て校長が卒業を認める。				
専攻科の修了の認定については、2年以上在学し、所定の授業科目を履修し単位を修得した者について、専攻科修了認定に関する査定会議の議を経て校長が行う。				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)

本科	機械工学科	1 6 7 単位	無	
	電気電子工学科	1 6 7 単位	無	
	制御情報工学科	1 6 7 単位	無	
	生物応用化学科	1 6 7 単位	無	
	材料システム工学科	1 6 7 単位	無	
専攻科	機械・電気システム工学専攻	6 2 単位	有	
	物質工学専攻	6 2 単位	有	
G P A の活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報（任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：
<https://www.kurume-nct.ac.jp/kikaku/Facilities.html>
https://www.kurume-nct.ac.jp/kikaku/campus_map.html

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
本科	機械工学科	234,600円	84,600円	約 54,900 円～ 約 91,870 円	スポーツ振興センター共済掛金 1,550 円 寄宿料 (入寮費含) 9,400 円 ～10,600 円 合宿研修費 2,720 円 英語外部評価テスト費 630 円 教科書及び学用品約 50,000 円～約 77,000 円
	電気電子工学科				
	制御情報工学科				
	生物応用化学科				
	材料システム工学科				
専攻科	機械・電気システム工学専攻			約 10,550 円～ 約 23,150 円	スポーツ振興センター共済掛金 1,550 円 寄宿料 (入寮費含) 9,400 円 ～10,600 円 教科書約 9,000 円～約 11,000 円
	物質工学専攻				

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 機構規則において、入学料及び授業料を減免及び徴収猶予とすることができる条件を定めており、寄宿料についても免除する規定がある。 また、加えて日本学生支援機構や地方公共団体、民間育英財団等の奨学金制度を学内に広く周知して学生の修学を支援している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 学生の進路指導は、就職主任や5年担任を中心に各学科内の密な連携のもと、少人数教育の利点を活かした丁寧な指導や助言を行っています。各学科には進路情報を学生が自由に閲覧、アクセスできる進路指導室、スペースを設けています。更に学校全体の取り組みとして(1)本科4年次における工場見学旅行や本科及び専攻科インターンシップ、(2)合同企業説明会や企業OB説明会及び大学等の進路説明会、(3)SPI模試や各種講演会や講習会等を実施しています。 平成29年度より就職を統括していた就職担当委員会を発展させ、「低学年も含む高専生活全体に渡っての、進学も網羅した学生のキャリアパスの確立のサポート」を目的としたキャリア支援室が創設されました。進路選択のさらなるサポートと共に、学生の日々の学習のモチベーションアップ効果も目指しています。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 学生相談室は、学生が直面する様々な悩みなどに対して、担任や授業担当教員と同様にその解決をサポートするところです。 学生相談室のメンバーは、学生相談室長・室員(教員)・看護師・カウンセラー・SSW・精神科医(必要に応じて来校)で構成されています。 カウンセラー及び精神科医は専門職の立場で学生の悩み等を聞き、必要なアドバイス及び解決へのサポートを行います。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法 : https://www.kurume-nct.ac.jp/ON/G-GAD/ID/index-edu_res.html

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	G140110111107
学校名	久留米工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		47人	53人	55人
内 訳	第Ⅰ区分	25人	23人	
	第Ⅱ区分	－	－	
	第Ⅲ区分	－	－	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				55人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（1）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

（2）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定		0人	-
修得単位数が標準単位数の5割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下）		0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況		0人	0人
「警告」の区分に連続して該当		0人	0人
計		0人	-
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（2）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間		前半期	0人	後半期	0人

（3）退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)		0人	0人
G P A等が下位4分の1		0人	-
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況		0人	0人
計		0人	-
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。